③　「表現の手引」について

「表現の手引」は，本題材の彩色の段階で用いる材料・用具，技法について簡単に説明したものであり，事前に実践した「表現遊び」でも有効に活用することができた。この手引を活用しながら，彩色段階での基礎的な技法や材料・用具の扱い等を学ばせようとするものである。

④　「ひらめきカード」について

児童一人一人の製作活動に表現意図と見通しを持たせるために，「ひらめきカード」を活用させた。

これには，児童の構想とアイディアスケッチを描かせ，絵を描くための要素と視点について理解させた。

下図は，児童Ｆ．Ｓのものである。「ひらめきカード」の観点が，アイディアスケッチや完成作品に一貫して生かされていた。

表　現　の　手　引

彩色するときの資料です。これらの特性を効果的に生かして色をぬりましょう。

材料と用具
材料：描いたり手を加えたり加工したりするもの（紙，絵の具）
用具：材料を加工したり，ぬったり，くっつけたりする道具

水性と油性
絵の具・色鉛筆・フェルトペンなどには，水性と油性のものがある。水性は水でとかしたりうすめたりする。油性は水にとけないが，水性をぬったところでも，かわけばその上にかくことができる。

透明と不透明絵の具
水彩絵の具には，透明と不透明のものがある。みんなは，ほとんど不透明を使っている。透明は，すきとおった感じで，ぬっても下の色や紙の白さ，そして，下にかいてある線などがすけて見える。

線で描く
線は形をかいたり，さかい目を決めたりするのに必要です。
また，面をそめるのにも線を使います。線といってもいろいろな感じの線があり，いろいろな用具と方法で表現できます。

太い線・細い線／強い線・弱い線／かたい線・やわらかい線／するどい線・にぶい線
まっすぐな線・まがった線／こい線・うすい線／きれいなすっきりした線・にじんでぼけた線
勢いのある線・ゆっくりした線・神経質な線／実線・点線・波線・破線・かすれた線

線の表現のちがいで感じが変わります。ほかにも思いつくかもしれませんね。カッターやはさみや指で切ったものをはっても線になります。線を生かした絵もありますね。

色をつける
色のついた線をかいたり，面に色をつけたりするのにもいろいろな用具や材料と方法があります。色をつけた紙をのりではるような場合には，かわかす必要も出てきます。

- **ぬる**　色をつけようとするところに，考えた色を直接ぬってゆく方法
- **混色**　パレットや皿で色をまぜて思った色をつくってぬる方法
- **重色**　色をぬった上にかさねて別の色をぬって，思った色を出す方法
- **にじみ**　画用紙を水でしめらしたり，ぬらしたりしてから色をつける方法
- **ぼかし**　ぬった色がかわかないうちに，色を別の筆でのばしたり水をつけた筆などでのばし，ぼかす方法

- **きり吹き**　スプレー ふりかけ
- **吹き流し**　水彩絵の て流した
- **こすり出し**　表面がさ から色鉛
- **墨流し**　大きめの ういても
- **そめる**　和紙など ちぎった
- **色を消す**　色をつ
- **色をつけない**　ちょっと 色をつけ
- **色を洗う**　色をぬっ 洗い落と
- **他のものを切ってはる**　別の紙を 切り絵の
- **色をひっかく**　ぬった水 ぬったク
- **描いてある所にかく**　色のぬっ 方法で，
- **立体・光とかげ**　かたま の色に す。か

※　もちろん，これらの他にもい 同じ材料と用具で表現をしよう

☆　みんなで使う材料 との所にもどしてお

ひらめきカード

題材	形や色の効果を生かして「物言の絵」をえがく	6年1組　番　氏名　F．S

★物語を聞いて、心に強く残ったこと
自分のことばにきづいたときみのすけは…のところ。

★描いてみたいところ
ランプを木につるしたところ。

★こんな感じに描いてみたい
せんたいてきにくらいかんじ。

★こんな色あいで描いてみたい
くらい色あい。

★材料や用具を、こんなふうに使って
いろいろつかいたい。
こくほそいふでではじめのばうかく。

◎　工夫すること
◇描きたいことがよく表れるように、大きさ、価置、構図を考える。
◇奥行きや明るいところ、暗いところを考えて表現する。
◇考えていることがよく表れるように材料や用具を生かし、色のつけ方も工夫する。

私の名前は　　です。図画工作科のマスコットです。
★印について、感じたこと、考えたことなどを書いて授業に生かしましょう。

アイディアスケッチ

Ｆ．Ｓは，「ひらめきカード」にアイディアスケッチを３枚描いた。構想は横画面だったが，作品は縦画面とした。（水彩、霧吹き併用）